

下総国猿嶋郡蕨打村古文書目録

國學院大學図書館所蔵古文書目録 (一)

解説

蕨打村古文書は東京都内の某古書店から購入したものである。一三六点からなり、元禄十一年三月の「五人組御改帳」(二号)が最も古い。明治七年七月の「帳簿御証印御願」(三五号)が最も新しい。

蕨打村は蕨打村とも書く。(二二 宝永三年三月の「村指出帳」(二号)によると、一色右京の時代に検地が実施されたとある。

一色右京は直房で承応元年十二月に父直氏の遺跡の内高四五〇〇石を知行し、高六六〇石余を弟直武に分与した。¹直房の祖父義直は武蔵国幸手庄に住し、天正十八年徳川家康が関東に入国した時に拝謁し、本領幸手庄で高五一六〇石余を拝領し、のち知行地を下総国相馬郡内に移され、木野崎村に住し、慶長の初めに致仕した。義直は実子照直に家督を継がせ、照直も慶長七年十月に高二〇〇〇石を加増され、高七一六〇石を知行したが、同十一年二月に死亡した。義直は娘の嫁入先の一色直為の長男直氏を養子とし、寛永の末年頃に家を継ぐことを認められ、本知五一六〇石余を相続させた。直氏は家を継いだ後も幼年であったため、実父で代官であった直為が諸事を沙汰し、直氏は采地の木野崎村に住した。直氏は慶安三年四月に甲府城の守衛となり、承応元年七月に死亡した。直氏の子が右京直房であって、直房も当初は木野崎村に住したが、のち江戸に出て小普請となり、寛文三年五月には常陸国下館城を守衛し、貞享元年五月に死去した。『寛政譜』には、その知行地が下総国相馬郡内とあるが、猿嶋郡内の村々も一部その知行地となっていたのかも知れない。下総国の場合は、元禄期前後にかなり郡域の変更があったので、江戸初期

大谷 貞夫 編
千田 豊子

と元禄十年代では郡域が変わっていた可能性もあるのである。直房の跡は長男直与が高三五〇〇石を相続し、弟直政に高一〇〇〇石を分与したが、元禄十一年三月に下総国の采地は三河国宝飯、設楽、加茂の三郡内に移封されている。元禄の地方直しに伴う移封であって、一色氏は関東の知行地から離れることとなった。恐らく筵打村もこの時上知されたものであろう。

元禄十三年頃の成立と考えられる「下総国十二郡高帳^②」によると、筵打村は高二七六石四斗七升三合で、牧野備前守知行と観音堂領とある。牧野備前守は成春で、下総国関宿城主で、高七万三〇〇〇石を知行しており、宝永二年十月に高七〇〇〇石を増され、八万石で三河国吉田城に移封された。成春は五代將軍徳川綱吉の側用人牧野成貞の養子であって、元禄八年十一月に襲封している。『寛政譜』の場合、同一郡内の知行地の移動の記事は対象とされていないので、元禄十一、二年の同一郡内の知行地の移動は記されていないものと推考される^③。

〔一〕の元禄十七年二月の「村境一件ニ付訴状案」(四三号)にも、四四年以前に小山村と野論があった時は、筵打村は一色右京の知行地であったとみえる。それは万治三年に当り一色直房の時代であった。

宝永二年十月に牧野成春と入れ替って、三河国吉田城から久世重之が高五万石で関宿城に入部した^④。〔二〕の宝永三年三月の「村指出帳」(二一)号は、筵打村の役人が新領主久世重之の代官に提出したものの控であろう。その後幕末まで筵打村は関宿藩領として続いて行くが、元文、寛保期に至り、利根川流域の流作場新田が開発された。〔五〕の寛政六年四月の「流作場差出明細帳」(四号)によると、寛保三年に勘定奉行神尾若狭守の新田検地を請け、その後安永天明期にも幕府代官によって新田検地が実施され、高一三石五斗四合、反高六〇町二反三畝一五歩、反高外の沼六町四反五畝一五歩、同秣場四町四反二畝一二歩が登録された。この流作場新田は他の流作場新田と同様幕府領として幕末まで存続した^⑤。

なお、二三六点の内から二五点を選び、史料として採録した。やはり、村明細帳や川普請、また河川交通にかかわるものが大部分である。筵打村の特色が出るものを特に選んだ次第である。

註

- (1) 『新訂寛政重修諸家譜 第二』一七九頁以下。
- (2) 静嘉堂文庫蔵。
- (3) 『新訂寛政重修諸家譜 第六』二七六頁以下。
- (4) 『新訂寛政重修諸家譜 第八』一一頁以下。

目録

(5) 大谷貞夫『近世日本治水史の研究』雄山閣出版(昭和六十一年)第五章第三節参照されたい。

分類 番号	年 月 日	史 料 名	形態	差出人・作成人	受取人
1	元禄十一・三	五人組御改帳	豎帳	菰打村	
2	宝永三・三・十八	御指出帳	豎帳	菰打村 名主覚右衛門他十四名	
3	宝永二・四・二十四	覚書帳 (野銭場草蒭荒シ一件等ニ付)	横半帳		
4	寛政六・四	流作場差出明細帳	豎帳	菰打村 名主角右衛門他六名	浅岡彦四郎 役所
5	天保十一・九	御取締筋被仰渡御請証文	豎帳	菰打村 名主角右衛門他二名	関保右衛門手代 中村仁左衛門他一名
6	慶応二・一・十七	御用継立人馬日締帳	横帳	菰打村	
7	慶応三・一・二十九	御用継立人馬日ノ帳	横帳	菰打村	
8	慶応三・九	日記帳	横半帳		
9	慶応四・一	御用継立人馬日ノ帳 下帳	横帳	菰打村	
10	明治元・一	御制札 (御一新ニ付)	豎帳		
11	明治二・五・二十一	附属村高取調書上帳	豎帳	何海道・何宿	

23	22	21	20	19 2	19 1	18	17	16	15	14	13	12
明治 五・十一・二十六	明治 五・九・ <small>(破損)</small>	明治 五・七・七	明治 五・五	明治 五・四	明治 五・二	明治 二・十一	明治 二・十・十六	明治 二・九	明治 二・九	明治 二・七	明治 二・五	明治 二・五
御請書 (寺院廃止ニ付)	小区合併ニ付事務扱所設置 但見込書	乍恐以書付御届奉申上候 (寄留人取調ニ付)	元朱印地取調差上帳	上 (家出人引取届)	借地人届書扣	(明治元年分米永納辻書上帳)	土井從五位様并御領主様御役所江 差上候書面之下書	附屬村々勤高取調帳	村高取調帳	御用人馬払帳	御届書写 (助郷高二付)	御割書拔写
豎帳	豎帳	豎綴	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	横帳	豎帳	豎帳
筵打村副戸帳 小川文十郎他一名		名主 小川与四郎他二名	筵打村 名主小川与四郎他二名	第二大区第六小区筵打村 荒井八五郎他二名	筵打村 組頭伊右衛門他一名	筵打村 組頭与左衛門他四ヶ村 四名	長谷村小前村役人惣代 組頭与左衛門他四ヶ村 四名	馬場村兼帶細戸村 他三十一ヶ村	筵打村組頭伊右衛門 他四ヶ村十名	筵打村	筵打村名主代兼組頭 伊右衛門他一名	筵打村
河瀬印旛県令		印旛県役所	印旛県役所	戸長 富山昇治		古河民政役場	土井從五位 役所		野木宿 伝馬所役人中		古河 民政役場	

35	34	33	32	31	30	29	28	27	26	25	24
明治 七・七・二十	明治 七・四	明治 六	明治 六・十・二十三	明治 六・九・二	明治 六・七・二十三	明治 六・四・二十八	明治 六・四・十三	明治 六・三・十二	明治 六・二・十	明治 六・二・七	明治 六・一・二十二
帳簿御証印御願	逃亡人帰住御願 扣書	□亡人御届書 <small>(逃方)</small>	船讓渡御願	(本作仕付反別其外取調ニ付達)	御検使御願 扣書	田方御検見入願 扣書	送籍人出生人届書	送籍人出生人届書	寺堂積代金届書控	杜寺調届書 蕤打村扣	八十八才百才御届書
豎帳	豎帳	豎帳	豎綴	豎綴	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳	豎帳
蕤打村願人 小川与四郎	当人親類 小川喜重郎他三名	小川与四郎	舟主蕤打村 福田勇三郎他一名	千葉県令 柴原 和	蕤打村立会人 小川太吉郎他一名	蕤打村立会人 小川太吉郎他二名	蕤打村副戸長 小川与四郎	蕤打村副戸長 小川与四郎	蕤打村立会人 小川太吉郎他一名	蕤打村立会人 小川太吉郎他一名	蕤打村副戸長 小川与四郎
千葉県令 柴原 和	千葉県令 柴原 和		千葉県令 柴原 和		千葉県令 柴原 和	柴原印旛県権令	第三大区一小区 戸長中	戸長	河瀬印旛県令	河瀬印旛県令	

48	47	46	45	44	43	42	41	40	39	38	37	36
寛延 元・十二・十一	延享 四・十一・二十六	延享 三・七・五	延享 三・三・十三	延享 三・二・二十	元禄十七・二・十八	欠	欠	欠	欠	欠	至 自 十一・十二 六・十一	申 六
質地証文之事	質地証文之事	壳渡申林証文之事	壳渡申畑証文之事	壳渡申林畑証文之事	乍恐以返答書を御訴訟申上候事 (村境一件ニ付)	赤穂介石記中之巻	赤穂介石記上之巻	寺岡切腹之段 安達原 二段目 神れへ矢口渡二段目	上 (野木宿伝馬附属助郷ニ付願書)	氏神并氏子戸数取調書	(出府持出金等覚書)	午御年貢金御手形写
状	状	状	状	状	状	豎綴	豎綴	豎帳	豎帳	豎帳	横半綴	豎帳
蕙打村地主 定右衛門他五名	蕙打村地主 市左衛門他五名	蕙打村壳主 金兵衛他三名	蕙打村壳主 喜左衛門他三名	蕙打村壳主 茂右衛門他三名	矢作村			談洲楼焉馬	長谷村 与左衛門他四ヶ村四名	辺田村他十二ヶ村		蕙打村 角右衛門他二名
蕙打村 角右衛門	蕙打村 角右衛門	蕙打村 覚右衛門	蕙打村 覚右衛門	蕙打村 覚右衛門					古河 民政役場			布施弥市郎手代 石沢伊八郎

60	59	58	57	56	55	54	53	52	51	50	49
安永 九・八	明和 九・二	宝暦 八・二・二十七	宝暦 六・十一・一	寛延 三・十二・十八	寛延 三・十二・十八	寛延 三・七・十七	寛延 元・十二・二十三	寛延 元・十二・二十	寛延 元・十二・二十	寛延 元・十二・十一	寛延 元・十二・十一
差上申一札之事 (観音寺住職被仰付二付)	人別越一札之事	質地証文之事	質地証文之事	質地証文之事	質地証文之事	証文之事(新墓所相構二付)	質地証文之事	質地証文之事	質地証文之事	質地証文之事	質地証文之事
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
薙打村観音寺且中惣代 喜右衛門他二名	鵜戸村 治郎左衛門	薙打村地主 兵左衛門他四名	薙打村地主 二郎左衛門他四名	薙打村地主 政右衛門他五名	薙打村地主 勘四郎他五名	薙打村 兵右衛門他一名	薙打村地主 吉右衛門他五名	薙打村地主 弥五右衛門他五名	薙打村地主 清兵衛他五名	薙打村地主 文右衛門他五名	薙打村地主 兵右衛門他五名
本寺 金剛院	薙打村 役人衆中	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門	薙打村 角右衛門

71	70	69	68	67	66	65	64	63	62	61
寛政 八・七・晦	寛政 八・六	寛政 八・三	寛政 六	寛政 六・七	寛政 五・十一・晦	寛政 四閏二・二十七	天明 八・二・二十三	天明 六・六	天明 五・三	天明 四・十
乍恐以書付御届奉申上候 (堤川除込樋等御普請人足勤 高二付)	乍恐以書付御届奉申上候 (水冠り田畑ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (農閑渡世ニ付)	一札之事 (下利根川浚自普請御請ニ付)	乍恐以書付奉申上候 (田方水吐出入ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (高懸り仲間ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (御救ひ金拝借ニ付)	差上申一札之事 (竿錢取立等ニ付)	乍恐以書付願上候 (流作場込樋入用普請ニ付)	往来証文之事 (秩父坂東巡礼ニ付)	質地証文之事
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
蕨打村名主 小川角右衛門他二名	蕨打村名主 小川角右衛門	角右衛門倅 富藏	蕨打村名主 角右衛門他二名	蕨打村名主 小右衛門他二名	蕨打村名主 角右衛門他二名	蕨打村組頭 勘右衛門	葛飾郡前林村 長右衛門他六名	蕨打村名主 角右衛門他二ヶ村十八 名	蕨打村名主 角右衛門	蕨打村地主 平左衛門他二名
村山平左衛門 他一名	村山平左衛門 他一名	村山平左衛門 他一名		大野平太夫	川本佐重郎	大野平太夫	奉行所	小池宇平太他二名	番所役人 諸国村々名主中	蕨打村 角右衛門

83	82	81	80	79	78	77	76	75	74	73	72
(文化五) 辰十二・十一	文化 五・十一・十	文化 五・九・十一	文化 四・十二・十	文化 四・十一	(文化三) 寅十二・七	(文化三) 寅十一・十六	文化 二・十一・二十四	文化 二・十一・二十四	文化 元・十二・四	文化 元・十一・十七	寛政 八・十二・十六
覚 (国役金受取ニ付)	覚 (夫食種代返納金受取ニ付)	覚 (朝鮮信使来聘国役金請取ニ付)	覚 (国役金受取ニ付)	覚 (夫食種代返納金請取ニ付)	覚 (国役金受取ニ付)	覚 (返納金受取ニ付)	覚 (国役金受取ニ付)	覚 (返納金受取ニ付)	覚 (国役金受取ニ付)	覚 (夫食種代拝借返納金受取ニ付)	覚 (立木売渡代金受取ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
岸本武太夫手代 森出義十郎	岸本武太夫手代 森出義十郎	岸本武太夫手代 田村弥三治	岸本武太夫手代 相沢忠次郎	岸本武太夫手代 相沢忠次郎	岸本武太夫手代 森出義十郎	岸本武太夫手代 森出義十郎	岸本武太夫手代 森出義十郎	岸本武太夫手代 森出義十郎	岸本武太夫手代 森出義十郎	岸本武太夫手代 森出義十郎	小泉町 森平他一名
薊打村新田	薊打村新田	薊打村新田	薊打村新田	薊打村	薊打村新田	薊打村	薊打村新田	薊打村	薊打村新田	薊打村	薊打村 富蔵

95	94	93	92	91	90	89	88	87	86	85	84
文化 八・九	文化 七・十二	文化 七・十二	文化 七・九	文化 七・七	(文化六)	(文化六)	(文化六)	(文化六)	(文化六)巳十二・四	(文化六)巳十二・二	文化 六・九
覚 (朝鮮信使来聘掛高役金請取ニ付)	覚 (国役金受取ニ付)	覚 (夫食種粃代拝借返納金受取ニ付)	覚 (朝鮮信使来聘掛国役金請取ニ付)	入置申一札之事 (悪事一件内済ニ付)	(関宿周辺水利関係絵図)	(赤堀川切開ニ付出会願)	乍恐以書付奉願上候 (権現堂川ノ切目論見ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (権現堂川ノ切目論見ニ付)	覚 (国役金請取ニ付)	覚 (夫食種粃代返納金受取ニ付)	覚 (朝鮮人来聘掛国役金請取ニ付)
状	状	状	状	状	鋪	状	状	状	状	状	状
岸本武八手代 大橋勇右衛門	岸本武太夫手代 飛田義十郎	岸本武太夫手代 飛田義十郎	岸本武太夫手代 杉浦九十郎	薙打村 伊左衛門他一名				猿嶋郡村々	岸本武太夫手代 大須賀九十郎	岸本武太夫手代 大須賀九十郎	岸本武太夫手代 田村弥三治
薙打村	薙打村新田	薙打村	薙打村新田	名主 角右衛門				関宿役所	薙打村新田	薙打村	薙打村新田

106	105	104	103	102	101	100	99	98	97	96
文化十四・四	文化十四・正・二十五	文化十二・十一	文化十一・十一	文化十・十二	文化十・十一・二十三	文化九・十二	文化九・十二	(文化九)申十一・十九	(文化八)未十二・十一	(文化八)未十二・十一
入置申一札之事 (茄子苗拔取一件ニ付)	差上申一札之事 (御出役江無調法ニ付)	覚 (夫食種代拝借返納金請取ニ付)	覚 (夫食種代拝借返納金請取ニ付)	覚 (国役金受取ニ付)	覚 (夫食種代返納金受取ニ付)	覚 (朝鮮人来聘国役金受取ニ付)	覚 (朝鮮人来聘国役金受取ニ付)	覚 (夫食種代拝借返納金受取ニ付)	覚 (国役金受取ニ付)	覚 (夫食種代拝借返納金受取ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
菰打村 周蔵他三名	菰打村金兵衛倅 磯吉他十三名	岸本武八手代 飛田義十郎	岸本武八手代 飛田義十郎	岸本武八手附 田村弥三治	岸本武八手代 前野甲七郎	岸本武八手附 田村弥三治	岸本武八手附 田村弥三治	岸本武八手代 前野甲七郎	岸本武八手代 杉浦九十郎	岸本武八手代 杉浦九十郎
菰打村役所	菰打村役所	菰打村	菰打村	菰打村新田	菰打村	菰打村新田	菰打村新田	菰打村	菰打村 覚右衛門	菰打村 覚右衛門

118	117	116	115	114	113	112	111	110	109	108	107
文政 四・十	文政 四・十	文政 四・十	文政 四・九	文政 四・八	文政 四・五	文政 四・二	文政 四・二	文政 四・二	文政 二・八	文政 二・四	文化十五・四
口上覚 (諸上納物成取立帳差上三付)	口上覚 (小前本他取立帳差出三付)	乍恐以書付御届奉申上候 (名主不正一件二付)	乍恐返答以書奉申上候 (名主不正一件二付)	乍恐以書付奉申上候 (名主不正一件二付)	覚 (年貢上納二付)	乍恐以書付御返答奉申上候 (名主不正一件二付)	乍恐以書付御訴訟奉申上候 (売地借請一件二付)	一札之事 (川々御普請仕立三付)	御触書 (諸色値下二付)	借用申金証文之事	奉差上内済証文之事 (博奕一件二付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
蕨打村名主代兼倅 名主見習条治郎	蕨打村名主代兼倅 名主見習条治郎	兵右衛門他三名	蕨打村名主代兼倅 名主見習条治郎	蕨打村名主代兼 条治郎	金兵衛他二名	願人蕨打村 組頭金兵衛他一名	蕨打村百姓十四人惣代 組頭金兵衛他一名	百姓代 喜右衛門他一名	喜右衛門他八名 商人文吾他三名	太五右衛門他十四名	大崎村名主 鉄藏他五名
山本常藏他一名	山本常藏他一名	山本常藏他一名	山本常藏他一名	佐藤忠右衛門 役所	名主 角右衛門	竹下金重郎他一名	竹下金重郎他一名	名主 角右衛門	蕨打村 村役人中	名主 角右衛門	山本常藏他一名

130	129	128	127	126	125	124	123	122	121	120	119
天保 二・十二・十七	(天保二)卯四	文政十三・十二・十	文政十二・八	(文政九)	文政 六・七	(文政五)	文政 五・九・二十六	文政 四	(文政四)	(文政四)	文政 四・十一
覚 (名主判鑑ニ付)	乍恐以書付御届奉申上候 (博奕一件ニ付)	取置申一札之事 (納米積送り御蔵入ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (組頭休役ニ付)	(中田宿代助差村免除願)	乍恐以書付奉願上候 (質物預り一条ニ付)	乍恐以書付奉申上候 (夏成年貢不納ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (夏成御年貢上納一条ニ付)	差出申一札之事 (拝借金一条ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (百姓召出吟味ニ付)	(名主不正一件ニ付返答書)	乍恐以追訴奉願上候 (名主不正出訴一件ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
菟打村 角右衛門他一名	台町名主 伊兵衛	組頭太五右衛門親類 重左衛門他二名	菟打村 彦兵衛他一名	菟打村 名主角右衛門	大谷口村組頭四五右衛門 伴 清助他一名	菟打村名主見習 条治郎	名主角右衛門代兼 名主見習 条治郎	菟打村年賦金借主 喜右衛門他五名	名主代兼名主見習 条二郎		
川舟役所	町役所	村役所			出役 長谷川甚之助他一 名						山本常蔵他一名

142	141	140	139	138	137	136	135	134	133	132	131
天保十二・十一・十	天保十二・十	天保十二・十	天保十二・十	天保十二・十	天保十一・八・十九	天保 三・七	天保 三・七・二十四	(天保三・三)	天保 三・三・三	天保 三・二	天保 三・二
乍恐以口上書御伺奉申上候 (立木伐採売木ニ付)	乍恐以書付奉申上候 (立木伐採一件ニ付)	乍恐以書付奉申上候 (立木伐採一件ニ付)	乍恐以書付御届ケ奉申上候 (立木伐採一件ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (立木伐採一件ニ付)	済口証文之事 (喧嘩口論一件ニ付)	乍恐以書付御届ケ申上候 (博奕手入ニ付)	覚 (蕨打村判頭ニ付)	覚 (家出人親類名ニ付)	(家出人帰村ニ付親類等氏名覚書)	乍恐以愁訴御願奉申上候 (家出人帰村ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (家出人帰村ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
蕨打村名主 角右衛門他四名	蕨打村名主 角右衛門他四名	蕨打村名主 角右衛門他四名	蕨打村名主 角右衛門他五名	蕨打村名主 角右衛門	蕨打村 又右衛門他六名	蕨打村名主見習 角右衛門	名主 角右衛門		名主見習 角右衛門他三名		蕨打村名主見習 角右衛門他十名
	寺社役所	寺社役所	寺社役所	倉持宣助	村役所	町役所			杉浦彦市		

155	154	153	152	151	150	149	148	147	146	145	144	143
文久四・一	万延元・十・二十	弘化三・十一・十六	天保十五・四・十四	天保十四・八・十四	(天保十三)	天保十三・六・十五	天保十三・六・十五	天保十二・十一	天保十二・十一	天保十二・十一	天保十二・十一	天保十二・十一
(渡舟場船越シ願聞済ニ付一札)	日雇 ^(虫損) □借用金之事	御請負一札之事 (太鼓張替ニ付)	以書付御届ケ奉申上候 (師匠見舞ニ付)	入置申一札之事 (水死者火葬ニ付)	(立木伐採一件ニ付覚)	(立木伐採一件ニ付願書)	(立木伐採一件ニ付願書)	差上申済口証文之事 (立木伐採一件ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (持山立木伐採一件ニ付)	乍恐以書付奉申上候 (持山立木伐採一件ニ付)	差出申一札之事 (立木伐採ニ付)	差出申一札之事 (境目立木伐採ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
越番 与左衛門他二名	南河原村借用人 梅吉他一名	小見村棒川 七平	薊打村 観音寺	新治郡高浜村 組合惣代政治他十五名				訴訟人 名主角右衛門他十一名	薊打村名主 角右衛門	薊打村名主 角右衛門	薊打村 観音寺	薊打村 観音寺
村役人 衆中	新屋敷 勝右衛門	当所 世話人衆	関宿 寺社役所	薊打村 役人衆中				関宿役所	寺社役所	寺社役所	薊打村名主 角右衛門他役人衆 中	薊打村名主 角右衛門

167	166	165	164	163	162	161	160	159	158	157	156
慶応 三・八	慶応 三・八	慶応 三・七	慶応 二・十	慶応 二・二	慶応 元・十一	慶応 元・五・二十四	元治 二・三・四	元治 元・十一	元治 元・九・二十三	元治 元・九・二十二	元治 元・八
入置申小作証文之事	入置申小作証文之事	議定書之事 (地所揚ヶ地ニ付)	小作畑証文之事	一札 (代助郷半年分請取ニ付)	為取替申渡方対談証文之事 (馬舟仕方ニ付)	(川縁出水ニ付仕方取極一札)	入置申一札之事 (法師戸村下繕普請ニ付)	乍恐以書付奉歎願候 (博徒召捕一件ニ付)	取極メ申議定一札之事 (浮浪一条ニ付)	取極申議定一札之事 (浮浪一条ニ付)	乍恐以書付奉申上候 (樅木伐木ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
目吹村小作惣代 助右衛門他三名	舟形村小作惣代 五右衛門他二名	名主 角右衛門他六十一名 二寺	新田村名主 須賀又右衛門	日光道中野木宿 問屋 宇三郎		蕨打村百姓代 善兵衛他八名	蕨打村百姓代 善兵衛他九名	蕨打村百姓平左衛門 親類甚五左衛門他十名	村役人 百姓代一同	蕨打村 役人 百姓代	蕨打村寺世話人 善兵衛他二名
蕨打村 役人衆中	蕨打村 百姓		蕨打村 役人中	蕨打村 役人衆中	請負人 伊右衛門	居村 役人衆	村役人衆中	長谷川甚七他一名	彦兵衛		関宿 寺社役所

178	177	176	175	174	173	172	171	170	169	168
明治 元・十二・十九	明治 元・十二・二	明治 元・十一	明治 元・十一	明治 元・十一	慶応 四・八	慶応 四・八 二十二	慶応 四・七	慶応 四・一	(慶応三)卯九・十九	慶応 三・八
乍恐以書附御届奉申上候 (家出人一件ニ付)	奉差上手形一札之事 (見張所通行ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (粃種子貸付ニ付)	差上申手形一札之事 (関所通行ニ付)	乍恐書附ヲ以奉願上候 (粃種貸付ニ付)	取極儀定一札之事 (悪党立廻リニ付)	入置申一札之事 (居屋敷引込人馬通行道ニ付)	対談一札之事 (組頭見習ニ付)	取極一札之事 (諸事儉約ニ付)	覚 (弁木代金受取ニ付)	差上申済口一札之事 (用材流木一件ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
薙打村当人親類 半左衛門他二名	薙打村名主 小川角右衛門	薙打村名主 小川角右衛門他二名	薙打村名主 角右衛門	名主 小川角右衛門他二名	薙打村 小川角右衛門他八名	惣百姓代 弥次兵衛他十名	三郎左衛門他六名	村役人百姓代	江戸深川木場 伊勢屋弥兵衛代清八	薙打村当人 平左衛門他三名
県知事 役人衆中	関宿見張所 役人衆中	鈴木嘉之助	中川関所 役人衆中	鈴木嘉之助		村役人衆中	名主 小川角右衛門		薙打村 平左衛門	用材取扱人江戸深川 木場 伊勢屋弥兵衛他一 名

190	189	188	187	186	185	184	183	182	181	180	179
明治 二・八	明治 二・七	明治 二・七	明治 二・五	明治 二・五	明治 二・五	明治 二・五	明治 二・一	明治 元・十二	明治 元・十二	明治 元・十二	明治 元・十二
覚 (差戻金受取ニ付)	取極メ申議定一札之事 (河岸場諸荷物請払ニ付)	為取替申一札之事 (河岸場荷物世話ニ付)	為取替申一札之事 (河岸場荷物世話ニ付)	乍恐書付ヲ以御届奉申上候 (河岸場問屋取立諸荷物請払ニ付)	(渡船場人足日ノ帳取調届書)	乍恐以書付奉歎願候 (助郷免除ニ付)	乍恐以書付御届奉申上候 (家出人御尋ニ付)	請状之事 (村方定使ニ付)	差出申一札之事 (村方切払ニ付)	乍恐書付以御届奉申上候 (家出人一件ニ付)	乍恐書付以御届奉申上候 (家出人一件ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
船形村 五右衛門他一名	蕤打村百姓代 重左衛門他八名	長谷村積問屋 藤藏	蕤打村名主 小川角右衛門他二名	蕤打村名主 小川角右衛門他二名	蕤打村名主代組頭 伊右衛門他一名	蕤打村百姓代 直右衛門他一名	蕤打村百姓与頭代 与左衛門他五名	与左衛門他二名	大谷口村 花教院看沮	蕤打村当人親類 半左衛門他三名	蕤打村与左衛門親類 善兵衛他三名
蕤打村 役人衆中	村役人衆中	蕤打村 役人衆中	長谷村問屋 藤藏	鈴木嘉之助	古河 民政役場	古河 民政役場	鈴木嘉之助	役人中	蕤打村 役人中	鈴木嘉之助	鈴木嘉之助

202	201	200	199	198	197	196	195	194	193	192	191
辰 五・八	辰 四・二十四	辰 四・十七	卯 十二・二十一	卯 二	卯 二・九	寅 十	寅 一・十	丑 十	子 二・十九	(明治二) ^(カ)	明治 二・九
覚 (触書等請取ニ付)	覚 (浦触書等請取ニ付)	覚 (触書等請取ニ付)	覚 (夫金増金受取ニ付)	覚 (神樂執行案内ニ付)	覚 (神樂納金受取ニ付)	覚 (日光御法会上納金請取ニ付)	覚 (中間増金請取ニ付)	覚 (日光御法会上納金請取ニ付)	(触書並証文受取ニ付書状)	差出申一札之事 (河岸場荷物世話ニ付)	一札 (野木駅附属村々勤方ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
小山村名主 七郎兵衛	小山村名主 七郎兵衛	小山村名主 七郎兵衛	桐木村 治助他一名	鹿嶋御師 立原作大夫	かしま 立原作大夫	杉浦縫右衛門他三名	桐木村 次助他一名	杉浦縫右衛門他二名	吉田村与頭 伊八郎	飛地 誰	野木駅伝馬所 役人 他二名
薊打村 名主中	薊打村 名主中	薊打村 名主中	薊打村 名主中		角右衛門	薊打村	薊打村 名主衆中	薊打村	星 ^(野カ) 村 勇藏	村役人衆中	薊打村他四ヶ村 役人中

215	214	213	212	211	210	209	208	207	206	205	204	203
十二・二十三	十二・十六	十一	十・十五	七・二十一	四・十五	二・四	酉七・二十	酉二・二十五	午七・五	巳一・七	辰十・十	辰九・六
覚 (手間給并端米代請取ニ付)	(一件内談ニ付書状)(包紙有)	覚 (金子請取ニ付)	(悪党共徘徊一件ニ付報告書状)	覚 (蕨打村百姓役所呼出ニ付)	覚 (金子受取ニ付)	覚 (触書等請取ニ付)	(来宅依頼ニ付書状)	覚 (人別帳面清帳差出ニ付)	覚 (小遣・馬代請取ニ付)	覚 (浦触書等請取ニ付)	覚 (百姓代順番取極ニ付)	覚 (縄拾房請取ニ付)
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
小沢伝治	中上伝右衛門	半右衛門内 石橋助藏	岩井腕久ニ而 処 左衛門	星野柳次	小沢伝治代 尾花政七	舟形村名主	杜之進	寺社役所	太五右衛門	小山村 七郎兵衛	原坪中	作事
蕨打村 役人中	小川覚右衛門	蕨打村 覚右衛門	蕨打村 保土田 若様	下郷蕨打村 名主中	蕨打村 角右衛門	蕨打村 名主中	磯川久治郎他一名		喜右衛門他一名	蕨打村 名主中		蕨打村 役人

228	227	226	225	224	223	222	221	220	219	218	217	216
欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠	欠
覚 (朱印写証文写等請取ニ付)	御詫一札之事 (百姓娘誘出一件ニ付)	差出申詫書一札之事 (百姓娘誘出一件ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (御救ひ金拝借ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (御救ひ金拝借ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (御救ひ金拝借ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (難渋故御用金御免ニ付)	乍恐以書付奉願上候 (御用金上納ニ付) (下書)	乍恐以書付奉願上候 (薙打村野錢場新田増永上納ニ付)	(野木役錢免除願) (下書)	往来証文之事 (坂東巡礼ニ付)	取替申畑証文之事 (雛型)	御年貢納受取
状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状	状
幸田村名主 八郎右衛門		詫人勘右衛門										
薙打村 役人中												

史料

〔一〕元禄十七年二月 村境一件ニ付訴状案 (状)

乍恐以返答書を御訴訟申上候御事

一矢作村・薙打村両村境之儀、八崎新堤岸ニ古荒之田貳町七畝歩寛永貳年丑ノ年之御水帳ニ槌ニ御座候、当拾五年以前未ノ年新堤御普請被遊候ニ付、垠落堀六拾間余新規ニ被仰付堀リ申候得共、薙打村ハ何ノ構無御座候所ニ、結句其落堀迄薙打村古荒田与申上候儀偽リニ御座候、谷地之儀者矢作村・法使戸村・他領本田伯耆守様御領分之内目吹村と以上三ヶ村ニ而田畑養ヒ之

237		断簡			
236	欠	(村絵図)	鋪		
235	欠	(利根川堤外論所絵図)	鋪		
234	欠	覚 (村役人他行諸入用ニ付)(雛形)	状		
233	欠	覚 (酒・肴代等勘定ニ付)	状		
232	欠	覚 (松・杉木代金勘定ニ付)	状		
231	欠	覚 (惣百姓連名ニ付) (後欠)	状		
230	欠	(寅辰年国役金取立勘定覚)	状		
229	欠	申渡覚 (法度遵守等廻村申渡承知ニ付)	状		

い草茹合之谷地ニ御座候、薙打村境之儀ハ小山村と矢作村と三境御座候、夫方谷地岸ニちこ塚・境塚と申而塚式ツ御座候、夫方利根川岸ニ小嶋と申所御座候、それより利根川を越式本柳と申而境柳式本御座候、夫方村付ニ墨塚・境塚式ツ御座候、此境之儀ハ元来方相定り候境印ニ御座候、然上七拾四年以前御公儀様御役御用木御通し被遊候、其節も右之小嶋ニ小屋ヲかけ、茹合三ヶ村ノ百性共相詰め罷在候、菅生村境目ニ而御役請取、則小嶋ニ而薙打村之人足ニ相渡し御役引送り相勤罷有候、則此所を小屋場と申候、次ニ又六拾八年以前刁ノ年菅生村と谷地論仕候ニ付、從御公儀様伊丹幡磨守様・堀式部守様・諸星清左衛門様・曾根権八郎様御見分御出被遊、隣郷之谷地境江篠を相立申様ニと被仰付、薙打村谷地境江もさ、お相立元来方ノ境目無相違御目ニかけ、則御証文三ヶ村江頭戴仕罷有候、是又四拾年巳前午ノ年木野崎村と谷地論仕候ニ付、壹枚絵図仕立差上ヶ申候様と從御公儀様被仰付候ニ付、則壹枚絵図仕立差上ヶ御証文三ヶ村江頭戴仕罷有候、右之通近年ニ至テ兩三度度迄段々御吟味之上、境目少もうろん成ル儀無御座候御事

一此度薙打村方小山村新堤みよ堀方利根川迄境堀相続き、兩村境ニ相究り候と申上候儀偽り申上候、右之みよ堀之儀者矢作村田地之内方せんげん沼江之おとし堀ニ御座候を境堀ニ偽り申上候、谷地之内之堀之儀ハ先年矢作村より中川・利根川迄、草茹小舟相通り申候舟堀を境堀と偽り申上候、右之草茹堀之内ニハ四ヶ所之あじば、前々方矢作村之百性所持仕罷有候、小嶋之内ニも法使戸村之百性所持仕あじ場慥ニ御座候、如此証拠段々御座候所ニ境目不埒之様ニ申上候、惣し而薙打村之百性御壹領分ニ罷成り、八年以來拙者共之谷地ニ而こい草盜茹仕候故、三ヶ村江鎌数多之取候を矢作村江計取申候ニ而ハ無御座候、將又拙者共谷地大嶋之内を若須と申上候儀、如何様成謀ニ而御座候か、若須と申所ハ先規之境目方ハ少川上ニ御座候御事

一薙打村古荒之場三拾石余みよ堀岸迄御座候と偽り申上候、薙打村之古荒分ニハよし柳仕立置、眼前ニ相見江申候矢作村之永荒場所迄差添、薙打村之古荒場所と申上候儀偽りニ御座候、次兵衛あじみよ堀岸御座候と申上候儀相違ニ御座候、其あじ之儀ハ薙打村境塚方内ニ御座候を、みよ堀岸ニ御座候と申上候儀偽りニ御座候、御僉儀之上ニ而証拠隠置無御座候、下畑壹畝式歩境塚をこし御座候と申上候儀偽りニ御座候、先年方境塚を越何ニ而も畑と申儀無御座候所を、三拾四年以前戌ノ年之御水帳ニ乘り申候と申上候儀一円難存、内々たくミニ仕候と奉存候、其畑之儀ハ薙打村岸ニ付畑御座候と覚申候所お、境塚おこしちこ塚向と偽り申上候、此境塚きし迄ハ先規方堤御破損之節も土取場ニ仕、矢作村自由ニ致来り申候、惣而薙打村谷地之分ニハ先規方にて柳之立出し大分ニ御座候得共、境目を越柳無御座候御事

一せんこ沼方御役金御上納仕候と申候得、此ぜんこ沼之儀者矢作村・法使戸村・目吹村三ヶ村之谷地之内、拾二ヶ所之沼数ニ

入御証文相絵図之表ニも御座候所、蕨打村よりハ御役金御上納仕候おこつけニ致、せんご沼を蕨打村地之内と偽り申上候、御役金之儀者蕨打村計リ上ケ来リ候様ニハ無御座候、川役金之儀ハ法使戸村・目吹村方も御上納仕候儀お、蕨打村ニ而ハせんこ沼ニかきり御役金御上納仕候と申上候儀、不謂儀ニ奉存候御事

一四拾四年已前小山村と原之野論之節ハ、蕨打村之儀一色右京様御知行所ニ而御座候得者、関宿様ハ蕨打村境目を御吟味被遊合絵図被仰付候儀者相違ニ御座候、尤小山村と野原出入之合絵図ニ御座候所お、今又矢作村之谷地境みよ堀ニ相究ル御印判御座候と偽り申上候御事

右之条々谷地境前々之通御慈悲被為仰付被下候ハ、惣百性永々難有奉存候、委細之儀者御尋之上口上ニ可申上候、以上

元禄拾七年申ノ二月拾八日

矢作村

(四十三号)

(二) 宝永三年三月 村指出帳(豎帳)

(表紙)

御指出帳

猿嶋郡

蕨打村

一御制札場名主覚右衛門前ニ先規より立来リ申候
一御札数 四枚

但シ、修理破損立替之儀、村ニ而致来申候

一 御朱印高三石

一 (破損) 壺ヶ所 観音堂 観音寺境内

一 (破損) 山林 御朱印之内

一 (破損) 平社地 同断

一 (破損) 竈社地 同断

一 一堂式ヶ所 别当支配

持分

一 一堂壺ヶ所 地藏堂别当

一 宮式ヶ所 香取宮境内别当支配
天神宮此社地御除地

一 小宮六ヶ所内式ヶ所境内别当

一 小宮式社

一 (平力) 壺ヶ所

右之外、山林・境内・社地・堂地無御座候

一 鉄炮之儀、何箇ニ而茂壺挺も無御座候

一 御城江当村方道法四里半程御座候、并方角者戌亥之方当リ申候

一 当村方東西江間数ノ九百三拾式間、南北江之間数ノ六百六間御座候

一 当村御制札場方、隣郷小山村御札迄道法式拾七町拾七間御座候

一 当村御札場方、隣郷矢作村御札場迄道法式拾九丁拾四間御座候

一 当村より庄内領舟形村・目吹村江道法三拾丁程御座候

一 寺式ヶ所 本寺武嘉岩付領末田村金剛院末寺

一 真言宗 大平山 浄園院

一 同宗 本寺猿嶋郡神田山村妙音寺門徒

一 当村人数合三百八人

観音堂領 観音寺

観音寺

太五右衛門
長左衛門

地藏院

同 寺

同 寺

支配 覚右衛門

支配 与左衛門

観音寺
地藏院

男百四拾八人

女百五拾三人

内

出家五人

道心貳人

右之外何者ニ而茂壺人も無御座候

一百姓家数合四拾七軒

一永五貫三百七拾五文御茶錢

一永七百文 ぜんかう沼鯉御運上

但、此沼当分者埋リ内沼ニ而魚獵仕差上申候

一永六百九拾六文 谷地高拾石七斗之野錢

一永五百文 川御運上鮭役錢

右之通り毎年御上納申候

一当村与小山村之合立八百式拾間、横百六間之原小山^(惣)地荳合ニ仕候

一利根川向河岸ニ付、舟形村与少々荳合之谷地御座候

一堤壺ヶ所長サ七拾式間・敷四間・馬踏四尺・高七尺五寸、圀樋壺ヶ所御座候

但、圀樋修理之儀御上様ヲ被遊被下候

一土橋壺ヶ所 村通路之橋村ニ而致来リ申候

一金三分錢三百ト五拾文 夫金糠藁代

一錢三百六拾貳文 筵代

一繩三拾七房内細繩六房

右之通毎年差上申候

馬数合五拾疋

一 当村御水帳壺冊

犬壺正

一 色右京様御代御檢地被遊候

一新畑御水帳式冊

右同断

此御水帳を只今用申候

外

下田三町壺反四畝歩

古高永荒

下畑八町九反五畝三步

同断

〔^(錢力)〕壺貫五百拾式文

山錢

是ハ谷地之内柳場百性^(姓)三拾七人ニ而所持仕差上申候

一 錢四拾八文

薬師山錢

一 錢百文

居山錢

一 錢百六拾八文

芦谷山錢

一 大豆五俵壺斗式升

四斗入弘升也

一 小豆六升

弘升也

此代米式俵式斗九升御割付之内ニ而、毎年被下候

一 小山村江入作少々御座候

一 草苧小舟六艘御座候

一 当村出人足壺割九人ツ、出シ申候、人足^(扶カ)□持米壺年ニ米壺斗式升八合ツ、去年被下候、年々不同ニ御座候

一 ^(破損)〔^(破損)〕年御城内并内かし花嶋御普請人足ニ付、錢六拾文ツ、御日用被下候

一 御役人様方郷廻リニ御出被遊候儀、御檢見之時分者村賄ニ仕候、其外御用ニ而御出被遊候節ハ、品々御持参被遊候

一 御仲間之儀、去酉之年桐木村と当村両村ニ而壺人御奉公ニ出申候

一錢貳貫六百五拾五文

御役錢

是ハ、御薪船賃・駄賃・御焼米代・没代御年頭錢ニ差上ケ申候

右之通村中相定リ申候、御上納物其外諸色不殘書載差上ケ申候、此帳面之通り相違成儀無御座候、以上

宝永三年戌三月十八日

薙打村

名主 覚右衛門 印

同 作右衛門 印

組頭 太五右衛門 印

同 庄右衛門 印

同 勘 (破損) 衛門 印

同 長左衛門 印

五人組頭 作太右衛門 印

三右衛門 印

吉作右衛門 印

弥五兵衛 印

平右衛門 印

八右衛門 印

半左衛門 印

善 兵 衛 印

次郎右衛門 印

(二二号)

〔三〕天明六年六月 流作場込樋普請ニ付願書 (状)

乍恐以書付奉願上候

一下総国猿嶋郡左之村々流作反高場之儀、此度御見分御改之上芝地・葭・真菰場等新開仕、御高入之儀御吟味ニ付承知得
心^{御請仕候}仕候、然所向目吹村流作場之儀、水除堤之儀自普請奉願上候ニ付障リ有無御尋ニ御座候、左候てハ出水之節私共村々甚難
儀仕候間、私共村々之儀も水除堤之儀築廻被仰付度奉願上候、左候へハ私差障リ之儀決而無御座候、殊ニ水除堤之儀相仕立利
根川より荒砂押入、殊ニ飯沼悪水落鬼怒川落口間近ニ而少々之出水ニ茂逆水仕、作毛出来兼可申与奉存候間、川通江水除堤相仕
立下之方江^ハ樋式ヶ所ニ仕候ハ、高場低場ともニ宜敷土地ニ御座候間、上田畑ニ相成作毛出来可申与奉存候、依之御入用御普
請被成下度段奉願上候処、右願之儀ハ難相立旨被 仰聞奉承知候得共無是非奉願上候儀者、堤之儀ハ随分自普請ニ致連々と仕
立可申与奉存候得共、^ハ樋式ヶ所之儀ハ御入用御普請ニ被成下候様奉願上候、以来ハ修覆等之儀自普請ニ可仕候間、右願之通
被 仰付被下置候ハ、偏ニ難有仕合ニ奉存候、以上

天明六年午六月

辻六郎左衛門御代官所
下総国猿嶋郡薙打村

名主 角右衛門^印

与頭 太五右衛門^印

同 長左衛門^印

同 勘右衛門^印

百姓代宗 吉^印

同 八右衛門^印

同 郡矢作村

名主 孫 市^印

与頭 善右衛門^印

同 孫右衛門^印

同 源左衛門^印

同 八右衛門^印

同 常 七^印

同 伊左衛門^印

小池宇平太様

岡野茂次郎様

宮田左右吉様

百姓代作右衛門印

□左衛門印

同要八印

同郡法師戸村

名主清兵衛印

与頭伝左衛門印

百姓代政右衛門印

(六三号)

〔四〕天明八年二月 竿錢取立等ニ付請書写 (状)

差上申一札之事

私共儀、常陸国行方郡潮来領玉造外九ヶ村、并下総国葛飾郡関宿逆川上利根川通栗橋御関所下を限、利根川通鬼怒川落合木ノ崎村迄、川筋道法八里程之間舳下渡世仕来場之所、右川筋近年埋強浅瀬ニ相成諸通船差湊、一同家業差支相成難儀仕候ニ付、下総・常陸国より江戸表江乗入候船々々竿錢取立候積リ対談仕候ニ付、右川筋埋之場所格別之場鉄廉を以相浚、其外ニ者矢来笹刎等数ヶ所相仕立置、水丈相増濬筋附直し候様拾ヶ年之間定浚被仰付被下置候様仕度旨、奉願訴状奉差上候処、段々御普請役中御見分有之、尚又御吟味之上左之通被仰渡候

一 栗橋御関所下赤堀川上迄式里余之場所ハ水丈も有之候ニ付浚相除、関宿逆川通下利根川筋鬼怒川落合、木ノ崎村まで五里余之間浚被仰付候^(破損)□ヶ年通船高、凡千百艘之内大船者^(半力)□壹本ニ付鑿四拾八文宛、小船者竿^(破損)□本ニ付鑿拾四文ツ、一上下ニ一度ツ、竿^(破損)□尤年々取集メ金高^(破損)□積リ被仰渡候

一 右浚入用金高之儀、私共差出候仕用ニ而者 不相当ニ被思召候ニ付、江戸川通り村請諸色直段を以御積リ替被為遊、別紙御仕用帳写御渡被下奉請取候、尤竿錢取立方之儀年々九月迄翌三月迄七ヶ月之間取立可申旨被仰渡、且年季之儀ハ拾ヶ年与相願候へとも、先当申ノ二月来ル亥三月迄中年三ヶ年之間相試、定浚願之通被仰付候間、通船差支無之様浚方出情仕候様被仰渡、尤右浚被仰渡候ニ付而ハ、先達而船壹艘ニ付鉄廉式挺ツ、所持仕度^度旨相願候所、其儀ハ勝手次第ニ被仰渡奉畏候

右之通被仰渡承知^奉被畏候、依而御請証文^{差上申候処}右之通被仰如件
天明八申年二月廿三日

前書願人とも江被仰渡之趣、私共一同罷出承知仕奉畏候、依之奥書を以申上候、以上

水戸殿領分

常州^州行方郡

玉造村

願人百姓 又左衛門

差添人組頭平左衛門

久世隠岐守領分

下総国葛飾郡

関宿^{内河岸}向河岸 船問屋

藤七煩代兼

願人 半右衛門

同 源左衛門

伊奈摂津守支配所

下総国葛飾郡

前林村

長右衛門

稲葉丹後守領分

同国相馬郡

布川村

新兵衛

久世隠岐守領分

同国葛飾郡

江川村

名主 次兵衛

三軒家

平右衛門

同人領分

関宿

三河岸船持惣代
平六代兼
弥右衛門

次兵衛

日下作左衛門

長田新五郎 知行所

数主計

同国豊田郡

水海道村

問屋船持惣代

次郎兵衛

御奉行所

柳生主膳正様御差紙ニ付、江戸表江罷出候惣代兩人一昨廿六日帰村仕候、則印形仕候写差添相廻申候
一拾八^(貫)三百文

此わり壺ヶ村ニ付式朱ト六拾文

右之通大暮ニ御座候間、明日中ニ私方へ御届可被下候、右之通申遣可被下候、以上

台村

〔五〕寛政六年四月 流作場差出明細帳 (豎帳)

庄右衛門
(六四号)

(表紙)

寛政六年
流作場差出明細帳
寅四月
下総国猿嶋郡
菰打村

寛保三亥年神尾若狭守様御檢地帳 壹冊
安永七戌年御代官小林孫四郎様御檢地帳 壹冊
天明八申年御代官辻六郎左衛門様御檢地帳 壹冊

一高拾三石五斗四合

反別五町八反五畝六歩

此訳

下々畑貳町貳反七畝拾八歩

高六石八斗貳升八合

畑壹町六反壹畝廿壹歩

高三石式斗三升四合

萱畑壹町四反八畝九步

高式石九斗六升六合

芝畑四反七畝拾八步

高四斗七升六合

一反高六拾町貳反三畝拾五步

此訳

畑壹町四畝九步

畑四町壹反九畝三步

畑四町六反八畝拾貳步

畑五町壹反八畝拾貳步

萱畑貳町貳反壹畝六步

□^(破損)畑壹町貳反三畝廿四步

萱畑八町四反廿四步

萱畑七町六反三畝拾八步

芝畑壹町七反三畝廿四步

芝畑壹町五反五畝拾五步

芝畑九反七畝六步

芝畑壹町貳反六畝六步

埜畑九反四畝六步

埜畑六反六畝廿壹步

埜畑五町壹反八畝拾貳步

埜畑拾貳町三反壹畝廿七步

右反高外

沼六町四反五畝拾五歩

同断

秣場四町四反式畝拾式歩

一流作場内民家無御座私領持添ニ仕候ニ付、家数・人別書上不申候

一大水之節御引方被下置候儀も御座候

一漁獵不仕候

一御普請所無御座候

一私領地頭御用序ニ相勤候ニ付、村入用帳差上来リ不申候

右者当村流作場書面之通明細帳相認メ、差上申候通相違無御座候、依之名主・組頭・百姓代印形仕差上申候、以上

寛政六年寅四月

下総国猿嶋郡庭打村

(貼紙)

浅岡彦四郎様

御役所

(貼紙)

「右之通明細帳相認差上申候

寛政九巳年

名主 角右衛門印
与頭 太五右衛門印
同 長左衛門印
同 勘右衛門印
同 重郎兵衛印
百姓代 右衛門印
同 八右衛門印

国郡村名

菅谷弥五郎様 名主角 右衛門

御役所 太五右衛門

毘右衛門

(四号)

〔六〕寛政六年七月 田方水吐出入内済ニ付申上写 (状)

乍恐以書付奉申上候

一 当村田方水吐出入之義ニ付、去十二日小右衛門・百姓代清左衛門御召出ニ被仰聞候者、先達而蒞打村角右衛門取扱ニ罷越候処、手段之趣不承知之由書付ニ而相届候ニ付召出ニ候、不承知之次第如何かと御尋ニ付委細奉申上候処、御聞済被成下、左候ハ、別ニ手段いたし為取扱可申候間、承知可有之哉ニ被仰聞御手段御内意之趣者

一 宿内悪水堀用水ニ引候披堀方先有形を堀内五寸埋メ、落口之處者は迄十文字戸井之處、悪水ハ戸井なしニ而兩堀堤方江川堤迄勢留メ江川堤ヲ切割落シ、披堀方は迄悪水不請候共、此後ハ大方之水場田堤下江も落双方江落候筈、弁納堀ハ勿論其外何ニ而も申年内済之通、右被仰聞之趣下耕地相談承知仕候、依之乍恐以書付奉申上候、以上

寛政六寅年七月

蒞打村

同 名主 小右衛門

与頭 太郎右衛門

百姓代清 左衛門

石野平 太 夫様

(六七号)

〔七〕寛政六年 下利根川通浚自普請請負ニ付一札写 (状)

一札之事

貴殿今般下利根川通浅瀬ニ相成通船難義之趣申立、浚自普請御請負奉願候処、御吟味之上土除場有無相糺村々役印取之可差出旨被仰渡候由致承知候、依之段々掛合土置場之儀者相對を以土取片付、有形之川筋浚候上者右願ニ付差障儀無御座候、以上

寛政六寅年

下総国猿嶋郡薙打村

名主 角右衛門

与頭 太五右衛門

百姓代喜右衛門

(裏書)

一

香取郡押砂村

願人 名主 次郎左衛門

江戸元飯田町
万屋伊右衛門方
徳市郎

浚場壺丁ニ付

竿壺本ニ付永壺文

(六八号)

〔八〕寛政八年七月 水番人足堤川除圢樋等普請人足勤高ニ付申上 (状)

乍恐以書付御届奉申上候

天明六午年方去ル卯年迄拾々年之間、水番人足其外堤川除圢樋等御普請本人足^{勤高}相勤、御扶持被下置候分員数書付ニ相認可差出旨

被仰付奉畏候得共、右御扶持頂戴之節直相勤候人足共江直ニ相渡、割賦為致候而已ニ而人足勤高書留置不申扣ひ無之事故、是迄之本人足勤高此節相分り不申候、然上ハ以来右出人足勤高御用之覚御差支無之様取計へ可申候、依之此段御届奉申上候、以上

蕙打村

寛政八年辰年七月晦日

小川角右衛門

太五右衛門

喜右衛門

村山三左衛門様

渡部法 藏様

(七一号)

〔九〕(文化六年) 赤堀川切開ニ付出会依頼状 (状)

就御用今日関宿へ罷出候^(ママ)之處、古川御ノ切被成赤堀川巾三十間余御開キ被成、下利根川へ御落シ被遊候由願人有之、此度御見分最中之由風聞有之候、就夫御相談申上度儀御座候間、来廿七日五ツ時方長須村弥勒屋へ御出可被遊候、右申上候得共并当御持参可然奉存候、風雨ニ不構御出合可被成候、御内意之義も御座候間必々無御名代、右場所へ御出可被成候、以上
今日就御用関宿へ

(八九号)

〔一〇〕(文化六年) 権現堂川締切赤堀川切広一件ニ付願書下書 (状)

乍恐以書付奉願上候

一下利根川通水開村々之儀、廿ヶ年已来川床高罷成常水七分ニ相流候故、小水出候而も川通田畑水開ニ罷成、以樋難保満水之節ハ先年ニ相違仕、囲堤防兼年々水損多困窮至極難儀仕罷有候、入会村々之儀も川通満水溢れ候ニ付、増水押入候故先年水腐不仕田畑迄も夥損毛仕、川通相離れ候村々も入郷之分、不残川通同前之水損ニ而、困窮仕難儀至極ニ奉存候御事

一風聴承候処、願人有之此度権現堂川を_メ切、赤堀川三十間通広ク切開落シ入候御目論見を以、御公義様_ヲ御役人御下シ被遊唯今專羽生領御見分之由承知仕候御事

一下利根川之儀ハ出水之年々水損相増リ申候、此以所ハ権現堂川川床高湯水仕候故、通船自然ニ相止分水同前之赤堀大河ニ流罷成、上利根川之常水赤堀川_ヲ下利根川へ落込候故、下利根川通田畑之水腐先年_ヲ拔群相増リ難儀至極ニ奉存候、実々風聴之通御見分在之願人訴之通御普請も御座候而ハ、下利根川之儀ハ川々之流水一鉢ニ落込申候、左候而ハ出水之節ハ水かさ之唯今迄老丈之出水ハ、老丈七八尺式丈ニもおよび候儀ハ必定ニ有之候、然上ハ田畑夥敷水入ニ罷成囲堤可相防様無御座、大分之水入ニ罷成百姓家居之所も増水押入候得ハ、住所ニも相惑困窮之上猶亦大困窮至極ニ而難儀ニ奉存候御事

一下利根川之内中峠村_村下小堀と申所ニ而、川巾漸五十間程ならてハ無御座候故、常水之水行細ク勿論境町_ヲ小堀迄十里之間ニ而、出水之節者溢れ候故境町_ヲ小堀迄ハ満水湛之場所ニて、此入会之村々共ニ田畑夥水腐ニ罷成候事

一下利根川通両側村々佐原迄、百三十ヶ村余之川通流作御新田畑六千町歩余も御座候由、此入会村々高凡拾七八万石余之所、願人訴之御普請御座候ハ、大水腐之場所相成申候間、御他領共ニ承伝ニ御_{なげき}歎ニ罷上可申と奉存候間、御領分村々之儀も何卒一統ニ罷上申度奉存候、尤私共村々之内ニも流作御新田付之村々之儀ハ、地代御冥加金大金を差上置候間漸々開発も致候所、万一上利根川・思川・佐野川、此川々_ヲ常水一鉢ニ流出致候而ハ、流作御新田之儀全潰ニ罷成申候間、別而御他領村々も御歎ニ罷上リ可申と奉存候間、御領分流作御新田付之村々之儀も、是又一同仕度奉存候御事

右奉申上候通、此度御公義様より御見分之上、願人目論見之通万_(認)一御普請も被為遊候而者、大勢之御百姓及困窮申候間、御慈悲之御勘弁を以川通御他領村々一同ニ御_(認)訴詔申上度奉存候、私共村々之儀ハ下利根川通始リ村々ニ御座候間、風聴承候否_レ恐以書付奉願上候、以上

〔一二〕文政四年二月 川々普請仕立方頼ニ付一札 (状)

一札之事

此度川々御普請ニ付当村御普請被 仰付候処、仕立方貴殿江一色御仕立被下候様御頼申上候、然ル上者御場所ニ而御差支無之様可仕候、依之百姓代連印仕候所仍而如件

文政四巳年二月

百姓代喜右衛門印

太 兵 衛印

名主角右衛門様

前書之通相違無御座候ニ付、奥印仕差出し申候、以上

巳二月

組頭 多五右衛門印

(一一〇号)

〔一二〕文久四年正月 渡舟場船越番ニ付一札 (状)

入置申一札之支

右者私義前々より不如意ニ付渡船場船越シ仕度候趣、親類・組合ヲ以村役人江願出候処、子ノ元日より丑十二月迄御聞濟被成候、然上者壺ヶ年ニ金八両ニ相定メ、則壺ヶ月金貳分拾匁宛々相納メ候筈、且又勤中人馬差支候歟、揚金差滞候ハ、加判之我等引受、万端無差支様急度相慎ミ聊村役人・百姓代衆中江少も御迷惑相懸ヶ申間敷、為後日一札入置申候処仍而如件

文久四子ノ

正月

越番 与左衛門印

親類 善 兵 衛印

組合 市郎右衛門印

村御役人衆中

(二五五号)

〔一三〕元治二年三月 法師戸村下繕普請渡方ニ付一札 (状)

入置申一札之事

当年法師戸村下繕御普請被仰付候ニ付鬪引仕候所、難渋之丁場引請候ニ付組々相談仕候得共、相当之賃銀ヲ以一同渡方仕度取
極り、若し村方ニおゐて土持致度もの者場所引請人江組込仕立方仕候筈、村中納得之上一同調印仕候所仍而如件

元治二丑年

薙打村

三月四日

百姓代善 兵衛印

同代印 五郎左衛門印

同代印 伊右衛門印

同 太左衛門印

同代印 伊平印

同 三郎右衛門印

同 兵右衛門印

同 重郎右衛門印

同 彦右衛門印

村役人衆中

同 治郎右衛門印

(二六〇号)

〔一四〕慶応元年五月 杭出普請黒鋤渡ニ付取極一札 (状)

取極申一札之事

近年川縁出水之度波崩ニ相成難渋罷有候ニ付、御見分之上杭出六ヶ所仕立方被仰付一同難有承知仕、就而者正人足ニ而相勤可申所、農繁之時節柄難行届キ候ニ付、相当之賃銀ヲ以黒鋤渡ニ仕度一同取極リ、若又正人足ニ而相勤度候もの者、右引請人江組込仕立方仕候筈、依之一札入置候上者右一条ニ付彼は申者ハ、私共引請村役人衆中江聊御迷惑相懸申間敷候、為後日入置申所仍而如件

慶応元丑年

五月廿四日

蕙打村

百姓代善 兵衛印

同 太左衛門

組頭 三郎右衛門印

判頭 重郎右衛門印

同 惣左衛門印

同 兵右衛門印

同 伊兵衛印

同 平左衛門印

同 半左衛門印

(ママ) 同

居村

役人衆中

(一六一号)

〔一五〕慶応元年十一月 馬舟仕立方ニ付対談証文案 (状)

為取替申渡方対談証文之事

一馬舟 壹艘

但上道具之儀者日抜
古釘拔へ候筈之事

代金三拾九兩也

内金三兩貳分也

内金貳拾兩也

是ハ古馬舟壹艘分

是ハ手付金相渡ス

殘金之儀追々相渡可申候

右舟仕立方之儀者前書代金ヲ以丈夫打立可仕候、場所之儀者名主小太郎地中庭ニ而打立可仕候、然上者宰領・木品引取人足・舟下入用人足之儀者我等方ニ而引受、尤木品買入方・大工・木挽・釘不足之分者貴殿方ニ而差出可申候、精々年分之内仕立方可仕候筈、依之馬舟渡方対談為取替入置申処如件、

慶応元丑年

十一月

(ママ)

前書渡方之儀者村役人・百姓代一同相談之上対談取極申処相違無御座候、依之連印仕候、如件

請負人伊右衛門殿

(一六二号)

〔一六〕慶応三年八月 御用材流木一件ニ付濟口一札写 (状)

差上申済口一札之事

右者此度貴殿御取扱被成候今般紀伊殿 御用材、去寅八月中出水之砌り流木ニ相成候処、我等心得違ヲ以引上手入致し引取置候
 処、貴殿川筋御見廻り先ニ而御改ヲ以、御切判御綱印銘も有之木品預り置候段、一言之御申分無御座候、依之当人省不申及親類組
 合一同奉恐入候、長谷村重五郎^(扱)以御勘弁相成一同難有仕合奉存候、右就而者弁木代金ニ而御聞済被成下、然ル上者当村縦小木
 たりとも一切無御座候、依之為後日済口一札仍而如件

慶応三年

卯八月

久世出雲守領分

下総国猿嶋郡

菟打村

当人 平左衛門

組合 伊左衛門

親類 甚五左衛門

長谷村 重五郎
 噺人

御用材取扱人

江戸深川木場

伊勢屋弥兵衛殿

精 八殿

(一六八号)

〔二七〕明治元年十一月 関所通行手形案 (状)

差上申手形一札之事

久世隠岐守領分

右者下総国相馬郡菅生村問屋四郎左衛門⁵不積木荷物積立、東京府本所三丁目市野屋庄藏方迄積送り申候間、其御関所御通被遊可被下候、以上

明治元^辰年十一月

薙打村

名主 角右衛門

川中

中川御関所

御役人衆中様

(二七五号)

〔二八〕明治元^十年^九□二月 村方切払ニ付一札 (状)

差出申一札之事

一今般其御村方切払之儀、当辰年分拙曾^僧江被申付忝存候、然ル上者来ル巳年ニ相成候ハ、村方ニ而切払等致候共、又者何方江相頼^僧候とも拙曾^僧ニ於テ聊申分無御座候、尤当辰年拙曾^僧江切払被申付候上者、右切払之儀ニ付外⁵何様故障申者御座候ハ、拙曾^僧罷出其御村方江少も御苦劳相掛ケ申間敷候、為念一札差出申処如件

明治元^十辰^九年□二月

大谷口村

花教院
看沮^(花押)

薙打村

下総国猿嶋郡薙打村

船主善次郎

水主万吉

御役人中様

(二八一号)

〔一九〕明治二年五月 渡船場通行人足日ノ帳取調ニ付届写 (状)

蕤打村之義者、往古より渡船場有之、平常旅人通行其外関東御取締御出役様、并臨時囚人送り・物番人足差出、知県事御支配様より御用状御先触御継立仕候、猶又飯沼郷五拾八ヶ村囚人送・物番人足未タ相勤罷在候、其外東京御廻米夜番人足差出、村方人足ニ而真似合兼御他領船形村人足相雇へ相勤罷在候、右難渋之始末三ヶ年分日ノ帳取調御届奉差上候、以上

久世順吉領分

明治二巳年五月

下総国猿嶋郡蕤打村

百姓代直右衛門

名主代伊右衛門
組頭

古河

民政御役場

此之通相認メ日ノ帳へ円込奉差上候、以上

(二八五号)

〔二〇〕明治二年五月 河岸場問屋取立ニ付届写 (状)

乍恐書附ヲ以御届奉申上候

御領分下郷蕤打村役人・百姓代一同奉申上候、当村渡船場素より農業渡船ニ御座候処、御用向為御弁利之近年継立追々相増、并知

県事様御納米御積立之砌リハ、毎夜同様番人足相勤少村之村方難渋罷在候間、今般一同相談之上惣村持河岸場問屋取立、諸荷物請払仕入用足し合ニ仕度奉存候得共、問屋株無之ニ付長谷村問屋藤藏方江申合示談行届、為取替書附左ニ奉申上候

為取替申一札之事

薙打村河岸場荷物世話方之儀、是迄村切りニ面々地先進対^{（通）}ヲ以世話仕来候処、今般改革之上惣村持一株ニいたし、長谷村問屋藤藏方江対談之上、長谷村下請問屋与取極申処相違無御座候、荷物請払之儀 知県事様御納米其外御用荷物之分者、前書藤藏方ニ而世話致候筈、其外諸荷物之儀者、薙打村手切請払仕候筈熟談取極、依之薙打村方前書藤藏方江、年々金壹両宛下問屋名目金与して差出候筈、示談仕候処相違無御座候、為後証為取替一札仍而如件
右之通、双方故障無之荷物請払相成候様対談行届申候間、此段乍恐以書附御届奉申上候、以上

明治二巳年五月

御領分薙打村

百姓代重 左衛門

組頭 五郎左衛門

名主

小川角 右衛門

鈴木嘉 之 助様

（二八六号）

〔二二〕 明治二年五月 河岸場荷物世話方ニ付取替一札 （状）

為取替申一札之事

薙打村河岸場荷物世話方之儀、是迄村切りニ面々地先進対を以世話仕来候処、今般改革之上惣村持一株ニいたし、長谷村問屋藤藏殿方江対談之上、長谷村下請問屋与取極申処相違無御座候、荷物請払之儀 知県事様御納米其外御用荷物之分ハ、前書藤藏方ニ而世話致候筈、其外諸荷物之儀者、薙打村手切請払仕候筈熟談取極、依之薙打村方前書藤藏方江、年々金壹両宛下問屋名目金与

して差出候筈示談仕候処、相違^(無御坐)候、為後証為取替一札仍而如件

明治二巳年五月

蕙打村

小前惣代重左衛門^印
(五郎左衛門カ)
組頭^印

名主
小川角右衛門^印

長谷村

問屋藤

藏殿

(一八七号)

〔三三〕 明治二年七月 河岸場荷物世話方ニ付取替一札 (状)

〔上〕^(包紙)

為取替申一札之事

長谷村

「

蕙打村河岸場荷物世話方之儀、是迄通村切りニ而地先進対^通ヲ以世話仕来リ候処、今般改革之上惣村持ニいたし、一株ニいたし長谷村問屋藤藏方江対談之上、長谷村下請問屋与取極申処相違無御座候、荷物請払之儀、知果事様御納米其外御用荷物之分者、前書藤藏方ニ而世話致候筈其外諸荷物之儀者、蕙打村手切り請払仕候筈熟談取極、依之蕙打村より前書藤藏方江、年々金壹両宛下問屋名目金与して差出し候筈示談仕候処相違無御座候、為後証為取替一札如件

明治二巳年七月

長谷村

積問屋藤

藏^印

蕙打村

御役人衆中

(一八八号)

〔二三〕 明治二年七月 河岸場諸荷物請払ニ付議定一札 (状)

取極メ申議定一札之事

一当村渡船場素_レ農業渡舟ニ御坐候処、御用向為弁利之近年御繼立追々相増シ并ニ、知県事様御納米御積立之砌者、毎夜番人足差出シ小村之村方一同難渋ニ付、今般一村相談之上、川岸場問^(屋)取建テ諸荷物請払、右入用足シ合ニいたし度義ヲ以 御領主様江御願上ケ、其上長谷村問屋藤藏方江示談いたし、此度河岸場問屋株請諸荷物請払ニ相成候上者、以来河岸場諸荷物之義者問屋方之差図ヲ受積立候筈、若相背き候歟、又者故障等申者御坐候ハ、其筋江御願立諸入用之義者一同ニ而出シ可申事、依之一同議定連印仍而如件

明治二巳年七月

薊打村

百姓代重 左衛門^(印)
 同 直右衛門^(印)
 判頭 徳左衛門^(印)
 同 忠兵衛^(印)
 同 多兵衛^(印)
 同 毘右衛門^(印)
 同 善五右衛門^(印)
 同 市郎右衛門^(印)
 同 伊左衛門^(印)

村

御役人衆中

〔二四〕 明治二年九月 村高取調帳 (豎帳)

(表紙)

村 高 取 調 帳

下 総 国 猿 嶋 郡
五 ケ 村

一 高七百八石八斗壹升六合

一 同六拾四石三合

一 同拾五石六斗三升四合

一 同拾四石六斗四升四合

四口合

高八百三石壹斗壹合

内高八石壹斗

一 上田七反四七廿六步

一 上田貳反三七拾八步

矢作村

同所新田

安永元辰高付分

同年二巳高付分

野錢高

盛十一 堀敷定引

荒地拾ヶ年引

(二八九号)

一同田貳反廿四歩

反別合壹町壹反九畝八歩

此高拾三石壹斗六升九合

一新田三七拾九歩

一同田三町九反貳セ拾五歩

反別合三町九反六セ四歩

此高拾五石八斗五升

ノ高三拾七石六升九合

残高七百六拾六石三升貳合

此四分

三百六石四斗壹升貳合

一高千三百八拾七石七斗貳升四合

一同百三拾八石六斗六升

一同拾壹石貳斗三升

一同貳拾石五斗貳升六合

四口合高千五百五十八石壹斗四升

内高拾壹石六斗貳升六合

一上田壹丁九反四セ拾歩

一同田九セ十七歩

一同田五反九セ四歩

反別合貳町六反三セ壹歩

此高貳拾八石九斗三升四合

一上田三反壹セ拾貳歩

盛四ツ 新堀敷引

荒地拾ヶ年引

長須村

同所新田

安永元辰高付分

同 二巳高付分

十一盛 年々不作十ヶ年引

砂入取反地引

年々不作「(虫損)」年引

盛十一 年々不作十ヶ年引

一新田貳町四反四七壺歩

一同田三七歩

一同田四反壺七十四歩

一同田壺反歩

反別合三町三反七歩

此高三拾六石三斗貳升六合

一新田壺町四反三七十歩

一同田拾五町壺反四七拾三歩

反別合拾六町五反七セ廿三歩

此高六拾六石三斗七合

一新畑六反四七十八歩

一同畑貳反九七拾貳歩

反別合九反四七歩

此高三石七斗六升

ノ高百四拾六石九斗五升三合

残高千四百拾壺石壺斗八升七合

此四分

高五百六拾四石四斗七升四合

一高六百五拾七石六斗六升

一同三十石壺斗壺升四合

一同四拾五石三斗八升貳合

高七百三十四石五升六合

同 水深十ヶ年引

同 堀敷定引

同 水深拾ヶ年引

同 砂入変地引

盛四 前々堤押切沼成引

水深十ヶ年引

同 水深拾ヶ年引

同 堤押切沼成引

長谷村

安永元辰高付
同所新田
安永二巳高付分
同所新田

此高貳拾壹石

合

一上田壹町五反壹畝壹歩

此高拾六石六斗壹升四合

一下畑三セ拾歩

此高壹斗三升四合

一新田五町壹反八七歩

一同田貳丁七反九セ六歩

一新畑成三反貳セ四歩

一同田五反壹セ廿五歩

一同田六丁六反九セ拾歩

一同田壹反三セ拾歩

反別合拾五町六反三セ廿五歩

此高六拾貳石五斗五升三合

一新畑四反六歩

此高壹石六升八合

高百^{十三}貳石九斗九合

残高六百三拾^貳三石壹斗四升七合

此四分

高貳百五拾貳石^{八斗五升九合}
三斗五升八合

一高^(六カ)百六拾四石壹斗^(虫損)升九合

野錢高

盛十壹 水深ニ付十ヶ年引

盛四ツ 西方土取場引

同 葭立拾ヶ年引

同 同拾ヶ年引

同 水腐ニ付十ヶ年引

同 前々押切先沼成落堀引

同 水深ニ付葭立十ヶ年引

同 年々不作引

堤切先沼成落堀引

小山村

一同六拾八石四斗壹升九合

一同三斗四升三合

一同貳拾五石九斗六升

四口合高七百六拾壹石八斗三升壹合

内高拾五石五斗

一上田貳七七歩

一同田壹丁三反貳七四歩

一同田六歩

一同田八反廿九歩

一同田貳七拾七歩

一同田五歩

一同田八反壹歩

一同田六反三七拾歩

一同田貳丁九反五七廿七歩

反別合六町五反七七拾六歩

此高七拾貳石三斗貳升八合

一上畑壹丁六七貳歩

此高八石四斗八升五合

一中畑壹反七七貳歩

此高壹石貳升四合

一下畑貳反壹畝廿歩

此高八斗六升六合

一新田壹七七歩

同所新田

安永元辰高付分

安永二巳高付分

盛十壹 新堀敷定引

同 悪水堀敷土揚場引

同 切広新堀敷定引

同 悪水堀敷土揚場引

同 荒地十ヶ年引

同 切広新堀敷定引

同 悪水落堀敷土揚場引

同 同断

同 荒地十ヶ年引

盛八ツ 悪水落堀土揚場引

盛六ツ 悪水落堀土揚場引

盛四ツ 同落堀土揚場引

盛四ツ 悪水落堀土揚場引

一同田四反五七拾五歩

同 荒地拾ヶ年引

一同田貳七十五歩

同 右同断

反別合四反九七七歩

此高壹石九斗六升九合

ノ高百壹斗七升貳合

残高六百六拾壹石六斗五升九合

此四分

高貳百六拾四石六斗六升三合

一高貳百九拾三石三斗四升三合

薊打村

一同拾九石八斗六合

安永二巳高付分

二口
ノ合高三百拾三石壹斗四升九合

内高拾石七斗

野銭高

一下田貳反拾八歩

盛九六 水腐拾ヶ年引

一同田八反六畝八歩

同 葭立拾ヶ年引

反別合壹丁六畝廿六歩

此高拾石貳斗五升九合

ノ高廿石九斗五升九合

残高貳百九十貳石壹斗九升九合

此四分

高百拾石八斗七升六合
三石四斗貳升四合

右者 此度村高之内諸引之筋明細ニ取調、残高四歩勤高共書出シ申処相違無御座候、以上

関宿藩知事支配所

下総国猿嶋郡

明治二巳年九月

矢作村

百姓代吉 左衛門

組頭 喜右衛門

名主 昇 治

長須村

百姓代半 右衛門

組頭 三郎左衛門

名主 武 兵衛

長谷村

百姓代奎 右衛門

組頭 与左衛門

小山村

百姓代源 右衛門

組頭 四五右衛門

庭打村

百姓代直 右衛門

組頭 伊右衛門

野木宿

伝馬所

御役人中

(裏表紙)

薊打村
荒井伊右衛門

(二五号)

〔二五〕明治二年九月 附属村々勤高取調帳 (豎帳)

(表紙)

明治二巳年九月
附属村々勤高取調帳

野木駅
御伝馬所

一高式百九石五斗四升四合

内八斗式升八合

都賀郡
中谷村
無地高引

残高貳百八石七斗壹升六合

此四分

勤高八拾三石四斗八升六合

一高三百六拾七石七斗九升九合

内三石八斗壹合

残高三百六拾三石九斗九升^八合^四

此四分

勤高百四十五石五斗九升九合

一高六百拾四石六升四合

内三拾三石壹斗九升

残高五百八拾石八斗七升四合

此四分

勤高貳百三十貳石三斗四升九合

一高六百壹石三斗六升五合

此四分

勤高貳百四拾石五升四合

一高百八十八石五斗九升三合

此四分

勤高七十五石四斗三升七合

一高百五拾七石七斗四升

此四分

勤高六十三石九升六合

一高千四百五十石八斗四升壹合

同郡
丸林村

同郡
赤塚村
無地高引

同郡
佐川野村

同郡
若林村

同郡
白鳥村

友沼村

内七十六石壺斗式升三合

残高千三百七十四石七斗壺升八合

此四分

勤高五百四十九石八斗八升八合

右七ヶ村

勤高合千三百八拾九石九斗九合

谷中部

一無民家

一高八百廿八石式斗式升^(六)合

内高六十九石四斗四升四合 諸引

残高七百五十八石七斗八升式合

此四分

勤高三百三石五斗壺升三合

一高五百六十四石六斗四升九合

内百九十三石四升六合 諸引

残高三百七十壺石六斗三合

此四分

勤高百四十八石六斗四升壺合

一高八百三十五石四斗六升

内七十七石式斗式升九合 諸引

残高七百五十八石式斗三升

此四分

勤高三百三石式斗九升式合

同郡
下宮村

同郡
恵下野村

同郡
赤浜村
同郡
野渡村

一高三百六十四石九斗貳升

同郡(沙)
高砂村

内八十九石八斗四升

諸引

残高貳百七十五石七升

此四分

勤高百拾石

一高貳百八十式石五斗壹升四合

同郡(沙)
西高砂村

内八十三石七斗八升三合

諸引

残高百九十八石七斗三升壹合

此四分

勤高七十九石四斗九升貳合

一高百四十六石九斗四升壹合

同
篠山村

内五十石九斗四升壹合

諸引

残高九十六石六斗七升貳合

此四分

勤高三十八石六斗六升九合

一貳百十式石壹斗九升六合

同
鎌立村

内百四十四石九斗八升貳合

諸引

残高六十七石貳斗壹升四合

此四分

勤高廿六石八斗八升五合

一高百八十三石九斗五升九合

同
横堤村

内五十八石五斗八升壹合

諸引

残高百廿五石三斗七升八合

此四分

勤高五十石壹斗五升貳合

右六ヶ村

勤高合千六十石五斗四升三合

中郷之部

一高千八十式石五斗九合

内百廿式石七升壹合六夕 諸引

残高九百六十石四斗三升七合四夕

此四分

勤高三百八十四石壹斗七升四合

一高五百六十石七斗七升七合

内百廿式石四斗九升七合 諸引

残高四百三十八石貳斗八升

此四分

勤高百七十五石三斗壹升

一高五百三十石七升

内四十三石貳斗四升 諸引

残高四百七十七石八斗貳升六合

此四分

勤高百九十五石壹斗三升

一高六百六十式石八斗壹升

内八石三斗九升壹合 諸引

残高六百五十四石四斗六升九合

都賀郡
下生井村

寒川郡
上生井村

都賀郡
白島村

同郡
新波村

此四分

勤高貳百六拾壹石七斗七升

一高八百四十七石七斗壹升壹合

内百八十石三斗八升三合 諸引

残高六百五十四石四斗六升九合

此四分 勤高貳百六十壹石七斗七升

残高六百六十七石三斗貳升八合

此四分

勤高貳百六拾六石九斗三升

一高四百石五斗七升七合

内四石八斗壹升九合 諸引

残高三百九十五石七斗五升八合

此四分

勤高百五十八石三升

一高百三十四石貳斗六升壹合

内十七石三斗四升六合 諸引

残高百十六石九斗壹升五合

此四分

勤高四十六石七斗六升六合

右七ヶ村

勤高合 (22)

一高百五十四石壹斗六升六合

内八十五石四斗九升四合 諸引

寒川郡
迫間田村

同郡
生井新田

同
堤木村

邑樂郡
内蔵新田

残高廿七石四斗七升

残高六十八石六斗七升壹合壹夕

此四分

勤高廿七石四斗七升

一高百三石九斗三升壹合

内廿石壹升貳合 諸引

残高八十三石九斗壹升九合

此四分

勤高三十三石四斗七升

一高八百四十三石六斗壹升七合

内百七十六石七斗七升三合八夕

諸引

残高六百六十六石八斗四升三合

此四分

勤高貳百六拾六石七斗四升

一高千七百廿貳石貳斗九合

内九百六十八石七斗三升五合

諸引

残高七百五十三石四斗九升三合貳夕

此四分

勤高三百壹石四斗

一高貳千七百八十六石五斗七合八夕

内千百九十八石四斗九升三合壹夕

諸引

高四百四石

残高千百八十三石六斗壹升四合六夕

浮戸村

岩田村

板倉村

海老瀬村

館林町
定助郷高引

此四分

勤高四百七十三石九斗五升

一高四百四石壹斗五升

内百三十七石貳斗五升壹合貳夕

諸引

残高貳百五十石八斗八升八合八夕

此四歩

勤高百六石七斗六升

一高三百七十七石六斗八升

内百九十六石三斗九升壹合

諸引

残高百八十石貳斗九升壹合

此四分

勤高七十石五斗貳升

一高五百四十石四斗八升四合

内三百四十石七斗六合

諸引

残高百九十九石七斗七升八合

此四分

勤高七十九石九斗壹升壹合

一高四百九十三石九斗壹升貳合

内百五十七石九斗六合壹夕

諸引

残高三百三十六石壹斗壹升五合九夕

此四分

勤高百三拾四石四斗四升六合

一高千貳百七石貳斗六升九合

西岡村

西岡新田

離村

大曲村

細谷村

内五百廿三石七斗壺升四合

（マ）

残高六百八十三石五斗五升五合

此四分

勤高貳百七十三石四斗貳升貳合

一高四百九十九石八斗六升壺合

内百五十八石 諸引

残高三百四十壺石八斗六升壺合

此四分

勤高百三十六石七斗四升四合

一高七百九十四石六斗五升三合

内四百六十五石九斗五升 諸引

残高三百廿九石六升貳合
(八)(七)(三)

此四分

勤高百三十壺石八斗五升

一高貳千三百拾三石貳斗五升貳合

内貳百八石貳斗貳升七合 諸引

残高貳千百四石九斗九升五合

此四分

勤高八百四十壺石九斗九升六合
(八)

一高三百廿石四斗貳升八合

内六十三石三斗貳合 諸引

残高貳百五十七石四斗四升五合

此四分

大荷場村

除川村

上大越村

新野木宿

勤高百貳石九斗七升八合

一高五百三十六石六斗五升

内九十壹石九斗六升八合

(六)(八)(二)

残高四百四十四石四斗六升八合

此四分

勤高百七十七石八斗七升貳合

一高三千四十貳石四斗三升壹合

内千六百八十壹石貳斗 諸引

残高千三百六十^七石貳斗三升七合

此四分

勤高五百四十四石四斗九升^(四)貳合

一高四百六十石貳斗九升壹合

内百九十七石四斗四升 諸引

残高貳百六十貳石八斗五升壹合

此四分

勤高百五石壹斗四升壹合

一高三百七十貳石

内百三十七石壹斗六升 諸引

残高貳百三十四石八斗四升

此四分

勤高九十三石九斗三升六合

一高八百三石壹斗壹合

内三十七石六升九合

本野木

木間ヶ瀬村

古布内村

桐ヶ作村

矢作村

残高七百六十六石三升貳合

此四分

勤高三百六石四斗壹升貳合

一高千五百五十八石壹斗四升

内百四十六石九斗五升三合

諸引

残高千四十壹石壹斗八升七合

此四分

勤高五百六十四石四斗七升四合

一高七百三十三石壹斗五升六合

内百壹石九斗九合

諸引

残高六百三拾壹石貳斗四升八合^(七)

此四分

勤高貳百五十貳石四斗九升九合

一高七百六十壹石八斗四升壹合

内百石壹斗七升貳合

諸引

残高六百六十壹石六斗六升九合

此四分

勤高貳百六十四石六斗六升八合

一同三百十三石壹斗四升九合

内廿石九斗五升九合

残高貳百九十貳石壹斗九升

此四分

勤高百拾六石八斗七升六合

長須村

長谷村

小山村

薊打村

一高九十三石八斗

馬場村

内五十三石九斗

諸引

残高三十九石九斗

此四分

勤高拾六石

此訳

八石

間々田附属高除之

八石

当駅附属高

惣高合三万式千四百六十六石七斗式升六合

内

九千五拾五石壹斗

諸引高

残高式万三千四百十壹石壹斗九升九合

此四分

勤高九千三百六拾式石

四分勤高之儀、斗升合右ヲ以
勤合高ニ詰、此趣記置畢

右者当四月野木宿附属被 仰付候所、中ニ者早々難儀申立御免除之儀、古河 御役場江奉願上候村方も有之候ニ付、其御筋江御伺被成下置候得共、未タ御下知無之候ニ付御沙汰有之候迄之処、当九月ノ新古高とも諸引残高四步通^(分)ヲ以可相勤旨被 仰渡候ニ付、前書之通勤高取調四割ヲ以人馬無不参相詰、其日々持切相勤可申候、尤右諸引高之儀も早々難儀申立候ニ付、当時御伺之趣殊ニ割付免状等無之村方も有之、右諸引取調証書支配所江差出置候分も有之過急間ニ合兼候ニ付、先村々々書出高ヲ以前書之通相勤罷在、追而其御筋ニ而御伺済之高ヲ以勤高相改、平等之割合過不足勘定可致筭取極候処相違無之候、仍之村々連印仮議定致置候処如件

明治二巳九月

馬場村兼帶

細戸村

木間ヶ瀬村
横堤村
鎌立村
篠山村
高砂^(沙)村
西高砂^(沙)村
恵下野村
下宮村
野渡村
丸林村
中谷新田
赤塚村
佐川野村
若林村
閏^(潤)嶋村
友沼村
堤木村
生井新田
迫間田村
新波村
白鳥村
上生井村
下生井村

(裏表紙)

薙打村
荒井伊右衛門

右村々三判宛

上大越村
薙打村
小山村
長谷村
長須村
矢作村
桐ヶ作村
古布内村

(一六号)